

■ 景観計画区域内行為届出書添付資料 景観配慮説明書（豊川水辺景観育成区域の基準用）

○ 豊川水辺景観育成区域の基準への対応

考え方	地域らしい景観づくりのポイント	具体的な景観配慮
<p>① 対岸や橋上からの広がりある眺望の確保</p>	<p>川沿いの建築物が形成するスカイラインや背景の山並みから突出して見えないよう努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平面計画を工夫し、川沿いのまち並みと同程度の高さの階数に抑え、背景の山並みからも突出して見えないようにした。</li> </ul>
	<p>川沿いの建築物が形成するまち並みとの連続性や統一感の形成に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>川沿いのまち並みの形態に合わせ、川に向けて傾斜する勾配屋根にするとともに、敷地内を緑化し、緑の繋がりが途切れないようにした。</li> </ul>
	<p>勾配屋根にするなど、背景の山並みや手前の堤防の地形と調和する形態、意匠とするよう努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>川に向けて緩やかに傾斜する勾配屋根とし、川側は1階部分を張り出し、川の地形に馴染むようにした。また、屋根は、陰影のできる鋼板縦葺きの仕様を選択し、自然に調和するようにした。</li> </ul>
	<p>分棟化や壁面の分節化などにより、長大な壁面や単調な壁面が生じないように努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平面的な外形に凹凸を設け、陰影や変化を生み出すことで、落ち着いて見えるようにした。また、大きな壁面は、仕上げ材や色彩の使い分けで、単調にならないように工夫した。</li> </ul>
	<p>屋上広告物や眺望を損ねる屋外広告物は設置しないよう努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>屋上広告物は設置せず、施設名は、川側から見えない位置に表示した。</li> </ul>
<p>② 河川に顔を向けた、潤いと安らぎのある景観の創出</p>	<p>背景の山並みや周辺の建築物、自然、農地と調和する、穏やかな色彩とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>屋根の色彩は、10YR3/0.5とし、沿川のまち並みと調和させた。外壁の塗装は、2.5Y7/1.5を基調色とし、2.5Y5/2をアソートカラーとして配色し、水辺の自然や背景の山並みに調和させた。</li> </ul>
	<p>水辺の自然や背景となる山並みと調和するよう、敷地周囲や壁面の緑化に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存の大木を保全するとともに、敷地内は自生種で緑化し、建築物の1階が見え隠れするようにした。また、川沿いの壁面の一部に壁面緑化を施した。</li> </ul>
	<p>自然や農地の地形に馴染ませ、水辺の自然や公園と一体感のある空間づくりに努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>隣接する公園側に、相互に見通しのきく開放的な空間を設け、花木や草花を植えることで、周辺と一体感のある環境を生み出した。</li> </ul>